

I 実践

〈本校の人権教育の目標〉

日本国憲法の概念である人権尊重の教育を生徒の発達段階や地域の実情をふまえながら推進し、学校教育活動全体を通して人権尊重の精神を高め、ひとりひとりを大切にしたい教育の充実を図る。

1 生徒の学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につける学習指導

生徒の実態調査から本校生徒の自己肯定感の低さが浮き彫りになった。確かな学力を身につけることが自己肯定感を高めることにつながると考え、以下のような実践を行っている。

(1) 「学び合い」の重視

数学科を中心に各教科で、1時間の授業の中に「比較検討」の時間を取り入れている。

学級内で自分が認められたり、さまざまな友だちの考えに触れることで仲間と学ぶ楽しさを経験し、学ぶ意欲が高まってきている。

(2) 小グループの活用

次のような「約束」を学級に掲示し、グループ活動がスムーズに進められるようにした。

【小グループの約束】

- ・ わからない人は隣の人に相談できる。
- ・ わからないと相談された人は、徹底的に教える。言われるまでは教えない。
- ・ グループのみんながわからないときは、他のグループに相談しても良い。

(3) 「学習のきまり」や「家庭学習の手引き」の活用

保護者の方への啓発と同時に、生徒の基本的な学習態度や自ら意欲を培うために継続して活用している。

2 思いやりや自他を大切にする実践的態度を育む道德教育

年間道德教育計画をもとに、さまざまな題材の中で、考えを深め、互いに共有することにより、人権尊重の精神の涵養を図っている。

3 自己肯定感を高める学級活動

学級活動では、一人一人が自分を表現する場を積極的に設定し、周りの人がそのさまざまな個性を認める活動を取り入れ、「自己肯定感」「自己存在感」を高められるようにしている。こうした活動を継続的に、繰り返し取り入れることで、将来の夢の実現に向かってねばり強く努力できる生徒を育てている。

4 人権に関する知識を深め、人権を身近に考える様々な活動

(1) 人権作文や人権メッセージへの応募

毎年全員で人権メッセージの作成に取り組んでいる。道德の授業などを通して、いじめなどや命の大切さについて考えたことを、自分の言葉で発信することで人権感覚の育成を図った。毎年継続して取り組んでおり、人権作文では、たくさんの生徒が入選した。

(2) 総合の学習の時間を通して

1年生では、「身近な地域における福祉について」をテーマとして、12月と1月の2回にわたり、地域の高齢者の方と交流会を行う。第1回の交流会では、高齢者の方を招待して、パンポンや卓球などのスポーツ、けん玉やカルタ取りなどの昔遊びを一緒に行った。共に活動することで、高齢者の方を身近に感じ、こういった接し方が望ましいかを学習した。1月には、目に障害がありながらも社会で活躍している方の講演及び音楽コンサートを開催する予定である。2年生では、「日本の今の諸問題」について考え、「幼児虐待」や「高齢化社会」など、個々の課題をもち、インターネットや本を通して調べる活動を行っている。社会的な視野から、いろいろな人の立場について考え、さまざまな人権について考える意識を高めた。

5 一人一人の人権を尊重した教師としての行動

台原中では、「教師が変われば生徒も変わる」を教訓に、教師自身が生徒ひとりひとりの存在を大切にすることを心がけるよう、次の5つの共通実践カードを携帯し、日々心がけている。

【5つの共通実践】

- ① 教師はチャイムが鳴る前に教室に行きます。
 - ・チャイムが鳴ったときには、教室にいる。
 - ・授業の終わりに、次時の授業準備をするよう指示している。
- ② 授業の始まりと終わりにお互いが気持ちのよいあいさつをします。
 - ・教師自身が生徒に対して気持ちのよい挨拶をしようとしている。
- ③ 生徒が発言できる場を多くもち、挙手する機会を多く与える授業作りをします。
 - ・より多くの生徒に、発言する機会を作っている。
 - ・発言する生徒のやりとりで授業を進めている。
- ④ みんなが発表者の方を見て聞く姿勢をもちます。
 - ・生徒の様子を見て、聞く姿勢に注意している。
- ⑤ 教師は1回の授業で5回以上ほめます。
 - ・学習規律について、全体的にほめる。

6 成果

- ・授業で、発表の場を増やしたり、認め励ましたりする場を設定してきた結果、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦する」生徒が増えてきた。また、わからないことをそのままにせず、友だちに聞いて解決しようとする生徒が増えた。
- ・生徒は自分の思いや考えを、教師や友だちに受け止めてもらえる体験を通し、自分が大切にされる気持ちを持つことができる機会が増え、自他を大切にしながら生活する気持ちが高まってきた。

II 今後の課題

実態調査において、「自分にはよいところがあると思う」と回答した生徒はまだ多くはない。生徒が学校生活の中で認められ、自分を肯定できる活動場面を作っていくことで支援していきたい。